

幼稚園生活への適応について (2)

—— 入園前の幼児集団参加経験との関連から ——

望月久乃・吉村智恵子

A Study on Social Adjustment in Kindergarten Children(2)

—— The Effect of Pre-Entry Participation in Infant Groups ——

Hisano MOCHIZUKI and Chieko YOSHIMURA

はじめに

3歳という年齢は、自我の芽生えとともに、子ども同士でも積極的にかかわりがもてるようになる時期であり、幼稚園入園可能な年齢となっている。しかし、その一方で3歳では心身の発達が不十分であり家庭で教育すべき年齢であるとして幼稚園に入園させる年齢ではないという3歳児入園に対して否定的な意見も根強く聞かれる。

しかし、現状では3歳児の幼稚園就園率は、昭和40年には2.9%、59年は12.2%、平成5年には26.4%と最近、漸次増加の傾向にある(文部省, 1984~1993; 時事通信社, 1993)とともに、3歳児以下の幼児を家庭外の幼児集団に積極的に参加させる傾向がみられるようになってきた(楠山, 1994; 藤崎, 1991)。また、家庭においては出生率の低下に伴い、子どもが経験しうる子ども同士の複雑なかかわり合いをもつこともむずかしくなっている。そして、幼児が幼稚園入園前に幼児教室を代表とするような幼児集団に参加することが、幼児の入園後の園生活に影響を及ぼしてきていることも報告されている(中田, 1986)。

以上のことから、幼稚園入園時期の中心が4歳児入園から3歳児入園へと移行しつつあるのは何に影響されているのか、子どもが出生後早期から幼児集団に参加しているのは、親が望む傾向にあるのか、集団に参加する欲求が幼児に芽生えるのが早まってきているからなのか等について明らかにすること。そして、早い時期に入園すること、入園前に家庭外での幼児集団へ参加することが、幼児のその後の幼稚園生活等への適応にどう影響しているのかを検討することが必要になってきている。

目 的

本研究では、まず幼稚園入園前の幼児が参加する幼児集団の種類、参加時期、及び経験内容、また母親がどのような考えにより幼児を家庭外での子ども同士の関わりのある場である幼児集団へと連れ出しているのかという観点から、幼稚園入園前の幼児集団への参加経験について調査する。そして、それぞれの幼児が入園前の幼児集団に参加した経験の有無が、幼稚園に入園してからの集団生活への影響等を検討することを目的とする。

方 法

質問紙調査方式で実施した(各園の担任経由で配布・回収)。

詳細は別に記載 (吉村・望月, 1995)。

分析対象 : Table 1 に示す。

Table 1 対象幼児の構成

		3歳児		4歳児		計 (人)
		男	女	男	女	
集団保育経験	有	55	61	42	46	204
	無	38	39	15	14	106
計		93	100	57	60	310

調査項目 : 幼稚園入園前の幼児集団経験の有無とその内容に関する項目 12項目
 質問内容の詳細は文末に資料として記載する。

結果と考察

1. 幼児集団参加経験

Figure 1 に示すように、幼児集団参加経験の有無については「経験有り」が全体の65.8%を占め、半数以上の園児が幼稚園入園前に何らかの幼児集団に参加経験していることがわかった。

性別で比較してみると、男児より女児の方がわずかに「経験有り」が多いが、大きな差はみられない。次に、入園年齢別で比較してみると、3歳児入園児 (以後「3歳児」とする) よりも、4歳児入園児 (以後「4歳児」とする) の方が「経験有り」が有意に多かった ($\chi^2 = 7.4$ $df = 1$ $p < .01$)。

このことからみると、幼稚園への入園が「3歳児」よりも1年間遅い「4歳児」は、それだけ入園前の時期が長くなるために、幼児集団への参加経験も多くなるのではないかと推察される。

2. 幼児集団参加時期

入園までの時期を半年ごとに区切り、入園年齢別に幼児集団参加の時期を比較したものを Figure 2 に示す。

幼児集団への参加時期は、「4歳児」よりも「3歳児」の方が早くからみられる。その時期を細かくみてみると、「3歳児」は2歳頃 (生後24~35ヶ月) から、「4歳児」は3歳頃 (生後36~47ヶ月) からという時期に、急に幼児集団への参加が多くなっていることがわかる。そして、この時期というと両方とも幼稚園に入園する1年前位の時期なのである。また、そのことに付随してであろうか「4歳児」よりも「3歳児」の方が全体的に生後早い時期から何らかの幼児

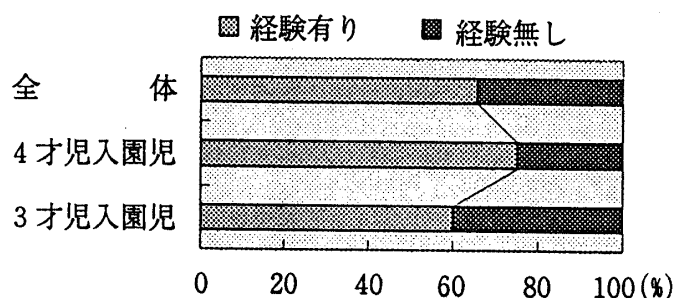


Figure 1. 入園年齢別、入園前の幼児集団参加経験の有無

集団に参加をしていることがわかった。

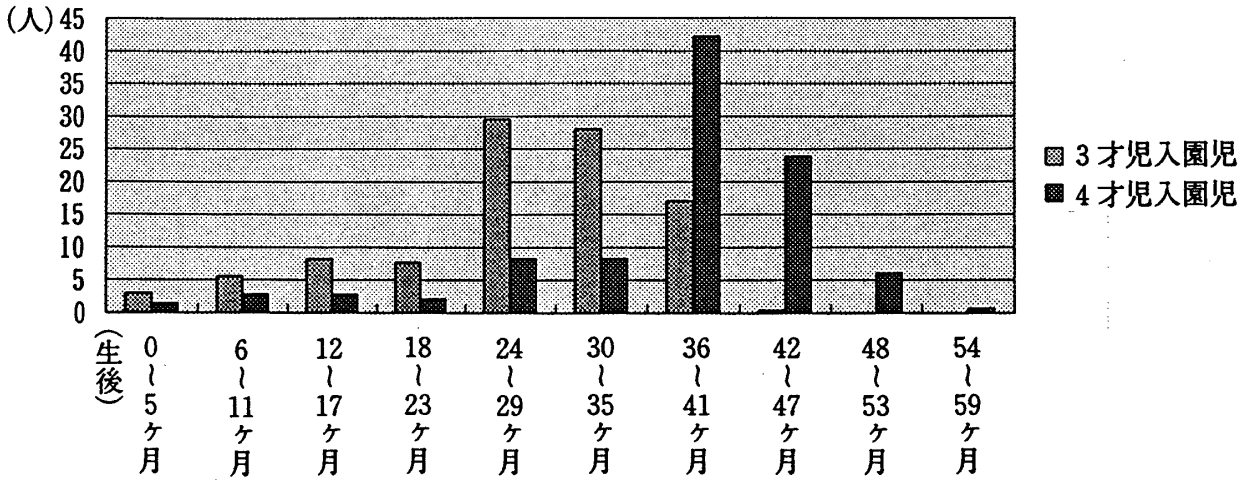


Figure 2. 入園年齢別・入園前幼児集団参加時期

3. 幼児集団参加の動機

Table 2 入園年齢別・入園前幼児集団参加動機

幼児集団参加動機	3歳児入園児	4歳児入園児
集団に入れる時期だと考えたので	43 (20.9)	50 (32.9)
遊ぶ友達が欲しかった	22 (10.7)	14 (9.2)
子どもが行きたがった	15 (7.3)	25 (16.4)
仲の良い友達が行っていて行きたがった	16 (7.8)	5 (3.3)
兄姉が行っていて行きたがった	10 (4.9)	3 (2.0)
母親の時間が欲しかったから	6 (2.9)	2 (1.3)
誘われたから	19 (9.2)	12 (7.9)
体力をつけるため	36 (17.5)	22 (14.5)
その他	37 (18.0)	17 (11.2)
無記入	2 (1.0)	2 (1.3)
計 (%)	206(100.0)	152(100.0)

幼児が入園前に何らかの幼児集団に参加する動機について、全体と入園児年齢別に比較したものを Table 2 に示す。ともに最も多かった動機は「集団に入れる時期だと考えたので」であった。また、「3歳児」は、「4歳児」と比較すると「兄姉が行っていて行きたがった」、「母親の時間が欲しかったから」と「子どもの仲の良い友達が行っていて行きたがった」とする動機が多く、「4歳児」の場合は「集団に入れる時期だと考えたので」と「子どもが行きたがった」とするものが「3歳児」よりも多かった。このことから、「4歳児」は親が子どもを集団に参加させたいとか、子どもが参加したいという時期になっても幼稚園に入園

させるのではなく、それに代わる何らかの幼児集団に参加させていることが推察される。

4. 幼児集団の内容

回答から得た複数の同じ名称の幼児集団の内容記述とその集団のパンフレットのものを収集し、幼児集団の内容を6種類に分けた (Table 3)。無回答の3.2%を除き、いずれもその内容についての専門家がいる幼児集団であった。そして、専門家の保育する大人1人あたりの子どもの人数は1人から30人であることがわかった。これは幼児集団の内容から差が生じるものと考えられる。

Table 3 幼児集団種類・内容

① 遊び主体	集団保育的な内容で、家庭をはなれ同年齢、異年齢の幼児集団の中で遊びを主体に個人の自主性・協調性・積極性・創造性などをのばすことを目的としていると考えられるもの。
② スポーツ	体を動かすことで、丈夫で健康な体をめざしながら基礎的な体力づくりを目的としていると考えられるもの。 水泳, 体操, クラシックバレエなどがある。
③ 才能開発 早期教育	単に知識を高めるためのものでなく、幼児が遊びの中で楽しみながら知的好奇心と興味を発展させながら、施設独自のカリキュラムをこなしながらの知能教育を目的としていると考えられるもの。
④ 音楽	楽器はピアノ・エレクトーン・バイオリンが多く、またリトミックなど楽しみながら音感, リズム感, 技能を身につけることを目的としていると考えられるもの。
⑤ 絵画・ 造形	絵画教室, 造形教室の名前で美感, 技能を習得し, 美的情操を養うことを目的としていると考えられるもの。
⑥ その他	自動車学校の託児所 共同生活所

全体でみると園児が入園前に参加経験することが多い幼児集団の内容は①「遊び主体 (37.5%)」、②「スポーツ (31.3%)」、④「音楽 (18.0%)」、③「才能開発・早期教育 (10.6%)」、⑤「図画・造形 (0.2%)」、⑥「その他 (2.4%)」の順であった。

性別では、①「遊び主体」と③「才能開発・早期教育」については、ほとんど差はみられないが、②「スポーツ」は女児よりも男児の方が、④「音楽」と⑤「図画・造形」など芸術関係のものは男児よりも女児の方が多く参加経験していた。

入園年齢別にみると、経験している内容の多い順位は「3歳児」と「4歳児」とでは全く同じであるが、「4歳児」は、半数近く (42.5%) が①「遊び主体」のものが占めていることがわかる。これは、幼稚園に入園可能な3歳の時期に幼稚園と似たような内容の幼児集団に参加経験する幼児が増えるためではないかと思われる。

子どもにとって初めて参加する集団の場への親の付き添いが義務づけられているものは全体の40.7%、反対に不可であるものは49.5%で、残りの9.7%は同伴でも子どもだけの参加でもいいものと無回答を含む (0.9%)。親の参加同伴が義務づけられているものを除き、その集団

の入所時の母親との分離についてみてみた。「離れなかった」とするものは18.7%、「時々離れなかった」のは24.9%、「スムーズに離れた」のは56.4%であった。このことは、子どもにとって集団への参加時期が早ければ早いほど母親と離れにくく、同伴が義務づけられるものが多いということを考慮しておかなければいけない。

5. 幼児集団参加の時期と動機との関連

Figure 3は、入園年齢別 (1. - 3歳児入園児・2. - 4歳児入園児) に、入園前までの時期を1年ごとに区切り、何らかの幼児集団に参加した動機との関係を示したものである。

2. 幼児集団参加時期で述べたように幼稚園へ入園する1年前頃から、急に何らかの幼児集団への参加が増えてくることがわかったが、その時期の参加動機に注目してみると、最も多かった動機は「集団に入れる時期だと考えたので」であり、「3歳児」は、25.6%、「4歳児」の場合は39.7%であった。また、子どもの年齢が上がるにつれて「遊ぶ友達をほしがった」、「子どもが行きたがった」や「子どもの仲の良い友達が行っていきかたがった」などの動機も増えてきている。これは「集団に入れる時期だと考えたので」の動機と同様で、子ども自身が何らかの子ども同士が集団に参加を望んでいるのを親が子どもを集団の中へ入れてもいい時期と考えてもいるとも推察される。

そして「体力をつけるために」の動機は、生後すぐから入園までの期間に必ず少なからず表れているが、これは参加時期を問わず、集団の種類「スポーツ」についての内容も表しているといえる。そして、入園年齢を問わず1, 2歳の頃にだけ他の時期には表れなかった「母親の時間が欲しかった」という動機がでてくる。これは、この年齢の子どもを持つ母親の育児に対する意識と関係があると思われるがここではふれない。

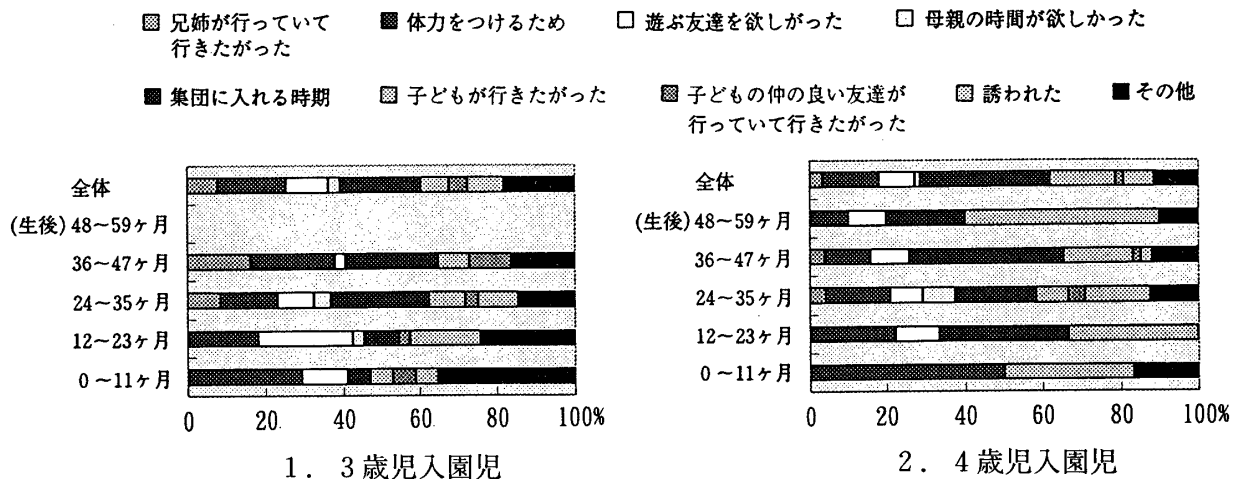


Figure 3. 入園前の幼児集団参加時期と動機との関係

次に、「集団に入れる時期だと考えたので」の動機から実際に集団に参加した子ども達の参加時期をみてみると、最も多かった時期は入園年齢別に「3歳児」は2歳頃、「4歳児」は3歳頃であり、この時期もそれぞれ、入園1年前の時期である。「3歳児」は69.8%、「4歳児」は80.0%とかなりの数を占めている。

また、「遊ぶ友達を欲しがった」、「子どもが行きたがった」や「子どもの仲の良い友達が行っていきかたがった。」の動機について入園年齢別に参加時期をみてみると、「4歳児」は2歳

頃から表われはじめ3歳頃に急に増えてきているが、「3歳児」ではすでに生後1年以内からそして、2歳頃に急にそれらの動機によって何らかの幼児集団に参加している幼児が増えていることがわかった。

そこで、「3歳児」が急に何らかの幼児集団に参加し出す入園1年前の2歳頃の時期と、「4歳児」がそれと同じ時期の2歳頃の幼児集団へ参加をした動機とを比較してみた。その時期における幼児集団に参加した動機に差はみられなかったが、「集団に入れる時期だと考えたので」の動機から2歳頃に子どもを何らかの幼児集団に参加した幼児においては明らかに「4歳児」よりも「3歳児」の方が多かった ($\chi^2=30.0$ $df=1$ $p<.001$)。

6. 幼児集団参加経験と幼稚園生活への適応との関連について

園児の幼稚園生活への適応状態が高い園児を高適応群とし、低い園児を低適応群に分けた(詳細は別に記載, 吉村, 1995)。

入園直後の幼稚園生活への適応を入園前の幼児集団参加経験との関連でみてみた。入園前に幼児集団参加経験がない園児よりも、経験がある園児の方が入園直後の園生活への適応が高い幼児が多いことがわかった ($\chi^2=3.96$ $df=1$ $p<.05$)。また、その入園直後の幼稚園生活が高い園児の中では、「3歳児」より「4歳児」の方が入園前の幼児集団参加経験の影響を強く受けている ($\chi^2=11.81$ $df=1$ $p<.005$)。そして、「4歳児」の中で、幼稚園入園前に幼児集団参加経験がある幼児の方が園生活への適応が高い ($\chi^2=6.13$ $df=1$ $p<.05$)。

ま と め

幼稚園に入園前の幼児の幼児集団の参加経験を、時期・動機・内容に分けてみてきた。結果から幼稚園入園前に何らかの幼児集団に参加経験することと、その後幼稚園に入園後の園生活との関連から分かったことをまとめて次に記す。

1) 幼稚園入園前に何らかの幼児集団へ参加経験した幼児は、入園後の園生活への適応が高い傾向にあった。

2) 「3歳児」の場合も「4歳児」の場合も幼稚園入園1年前の時期に、何らかの幼児集団に参加するものが急増加する傾向があることがわかった。そして、入園前に幼児集団に参加した幼児の中では、「3歳児」よりも「4歳児」の方が、入園後の幼稚園生活への適応が高かった。このことは、「4歳児」にとっては入園までの1年間は、幼稚園入園が可能になってからの1年間であるので、その時期における幼児集団での経験は、「3歳児」の入園前1年間での経験よりも、幼稚園生活への適応に有効な経験となっていると考えられる。

3) 入園年齢を問わず、入園前1年間に幼児集団への参加開始が最も多くなっているが、その動機としては、親が子どもを子ども同士の集団に入れる時期だと考えたり、子どもが何らかの幼児の集団に自ら行ってみたいと欲したり、遊ぶ友達を欲しがったとするものが多い。このことは、親が幼稚園の入園時期を見通して、その1年前に入園準備のために子どもを何らかの幼児集団に入れようとしたからなのか、子どもの欲求を受け入れて集団に入れてみて、集団の中での子どもの様子から入園時期を決めた結果によるものなのか今回の調査ではわからなかったが、両者には何らかの関連があると思われる。

本研究でいう「幼児集団」とは、ほとんどが、専門家による指導のもとであったり、参加するのに有料であったりして形づけられた幼児の集団をさしている。ここでは、そういう幼児集団だけを対象にして、入園前の幼児集団の参加経験の有無を考えてきた。しかし、日常の近

所遊び等の子ども同士の間発生的な集団や、その他実際に幼児をとりまく環境などの要因も含め、今後さらに細かい分析を加えるとともに、観察等により資料を得ることも必要であると考えらる。

文 献

- 藤崎真知代．(1991)．幼稚園と学校生活．無藤隆（編）．新・児童心理学講座11 pp.61-111．
東京：金子書房
- 時事通信社．(1993)．教育データランド 93～94 ． pp.2-3．
- 楠山三香男．(1994)．変わりつつある幼稚園・保育所．岡本夏木・高橋恵子・藤永保（編）幼児の生活と教育 5 ． pp.69-81．東京：岩波書店
- 久世妙子．(1991)．乳幼児期の間関係の発達．久世妙子・西頭三雄児（編）．人間関係．東京：福村出版
- 文部省．(1984～1993)．学校教育調査報告書．
- 文部省．(1984)．現代の家庭教育．ぎょうせい刊
- 中田カヨ子・尾原志子・岡崎比佐子・前典子．(1986) 入園前の『けいこごと』が園生活に与える影響．保育学年報 1986年版． pp.61-70．
- 吉村智恵子・望月久乃．(1995) 幼稚園生活への適応(1)．名古屋女子大学紀要 (人文・社会編)．名古屋女子大学．名古屋． 41． pp.151-160．

付 記

調査にあたり、快くご協力下さった各園の先生方、園児の父母のみなさんに御礼申し上げます。

資 料

・お子様を幼稚園入園前に、近い年齢の子ども達がいる集団の場へ入れたことがありますか。

a. あ る b. な い



・「a. ある」とお答えになった方にお聞きします。記入例にならってできるだけ詳しくご記入下さい。

「入所の動機」と「親から離れるとき」と「子どもの様子 (入所初期とその後)」については、下記の項目の中から最もあてはまるもの一つを選んで、その記号をご記入下さい。

下記項目から選んで記入

① ② ③

記入例

名 称	内 容	専門家 有・無	親 参 加	人 数 保 育 者 1 人 対 幼 児 数	期 間	料 金	動 機	入所時 親から 離れる	子 ども の 様 子	
									初期	その後
○ ○ 幼児教室	週2日1日3時間遊び 中心の保育	有	自由	5	2歳3ヶ月 ～入園	有	e	B	オ	ア
△ △ くらぶ	必要時間に応じて預か ってくれる	有	不可	3	生後10ヶ月 ～入園	有	b	A	エ	ウ
× × スイミング スクール	週1日1時間の親子 ベビースイミング	無	義務	5	生後6ヶ月 ～現在	有	b	—	ア	ア
別 に ない	近所の主婦グループで 交代保育 週1日半日	有	自由	3～5	1歳～ 2歳5ヶ月	無	h 近所主婦	C	ウ	カ
○ ○ 保育園	週5～6日普通の私立 保育園	有	不可	年齢により変 わった	1歳～3歳	有	d	B	エ	カ

① 【入所の動機】

- a. 兄姉が行っていて行きたがった。
- b. 体力をつけるため。
- c. 遊ぶ友達を欲しがった。
- d. 母親の時間が欲しかったから。
- e. 集団に入れる時期だと考えたので。
- f. 子どもが行きたがった。
- g. 子どもの仲のよい友達が行っていて
行きたがった。
- h. 誘われた。その方とお母様との間柄
は？ ()
- i. その他 ()

② 【入所初期に親から離れるときのお子様の様子】

- A. 離れなかった。
- B. 時々離れなかった。
- C. スムーズに離れた。

③ 【子供の様子】

- ア. いつも喜んでいく。
- イ. 行く時から嫌がる。
- ウ. 喜んでいく時と嫌がる時がある。
- エ. 行く時は嫌がるが、行けば落ち着く。
- オ. 親から離れない。
- カ. 特に変わった様子はない。
- キ. その他 ()